

# 2027年用パワーマックス 現代文 おすすめ問題

本試験の第3問問3 (ii) では、①複数資料を踏まえて、生徒の課題（レポート）の今後の方針を考察する問題が出題されました。②3行にわたる選択肢からそれぞれの資料の特徴を素早く正確にとらえることが求められました。

2027年度パワーマックスでも本試験の特徴を踏まえ、第3回第3問の問4では、複数資料を踏まえて課題（レポート）の今後の方針を考察する4択型・3行選択肢の問題を設けています。その他全体としても2026年度試験の最新傾向を踏まえながら、問題文では単独の文章問題や複数資料の問題を幅広く収録し、設問ではノート形式やメモ形式の問題・4択を中心とした選択肢の構成で、様々な形式に対応する力をつけます。

## 2027年用パワーマックス 現代文 第3回 第3問 問4

②3行にわたる  
長い選択肢にも対応

①複数資料  
を参照

問4

① Lさんは「資料Ⅰ」～「資料Ⅲ」を踏まえて主権者教育の効果と今後の課題についてのレポートを作成することにした。その方針として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 22。

- ① 現在、多くの高等学校で主権者教育が実施されているが、18歳～20歳の投票率は低下傾向にある。この結果は知識吸収型学習に偏っていた従来の主権者教育の限界を示しており、今後は能動型学習の機会を増やすとともに、家庭や地域との連携、メディアリテラシーの育成が求められるといった結論を述べる。
- ② 現在、多くの高等学校で主権者教育が実施されているが、知識吸収型学習が重視されており、能動型学習が十分に行われていないと言いたい。政治関心や投票意欲をより高めていくために、児童生徒がおもしろいと思える能動型学習を中心とし、その情報や経験の共有を早急に進めていく必要があるといった結論を述べる。
- ③ 現在、多くの高等学校で主権者教育が実施されており、政治関心や投票意欲の向上につながる学習法も模索されている。一方で、児童生徒が主体的に社会に参画していくためには、学校と家庭、地域、関係組織などとの連携を深め、幼少期から主権者としての意識を養っていく必要があるといった結論を述べる。
- ④ 現在、多くの高等学校で主権者教育が実施されており、生徒がおもしろいと思えるような学習法の研究も進んでいる。さらに、実際に投票するのは教育関係者ではなく児童や生徒自身であり、児童や生徒が有権者としての意識を高められるよう選挙の情報をわかりやすく伝えるメディアリテラシーが重要だといった結論を述べる。

## 2026年度共通テスト 本試験 第3問 問3 (ii)

②3行にわたる  
長い選択肢を出題

(ii) Mさんは、「資料Ⅱ」に見られる工夫を考察している。比較結果の分析と今後の方針の号は 22。  
①複数資料を参照

- ① 比較した結果、「資料Ⅱ」には、情報の取捨選択や独創的なストーリー展開といった、子どもに生き物の世界の魅力を伝えることにつながる複数の特徴があることがわかった。これをふまえ、今後はこれらの特徴が「資料Ⅱ」に特有のものかどうかを検討するために、さまざまな科学的な内容の絵本を用意して「資料Ⅱ」と比較する。
- ② 比較した結果、「資料Ⅱ」には、情報の取捨選択や個別事例の詳述といった、子どもに生き物の世界の魅力を伝えることにつながる複数の特徴があることがわかった。これをふまえ、今後は「資料Ⅲ」の特徴にも着目し、科学的な内容についてわかりやすく伝える方法を検討するために、さまざまな科学的な内容の本を用意して「資料Ⅲ」と比較する。
- ③ 比較した結果、「資料Ⅱ」には、情報の取捨選択や臨場感のある描写といった、子どもに生き物の世界の魅力を伝えることにつながる複数の特徴があることがわかった。これをふまえ、今後は「資料Ⅱ」に他の特徴がないかどうかを検討するために、さまざまな本を用意して「資料Ⅱ」と比較する。
- ④ 比較した結果、「資料Ⅱ」には、情報の取捨選択や情感あふれる表現といった、子どもに生き物の世界の魅力を伝えることにつながる複数の特徴があることがわかった。これをふまえ、今後は「資料Ⅱ」以外の絵本にはどのような特徴があるのかを検討するために、さまざまな絵本を用意して「資料Ⅲ」と比較する。

# 2027年用パワーマックス 古文 おすすめ問題

本試験の第4問問5は、複数文章の問題として①問題文とは別の箇所の引用文を踏まえた読解問題が出題されました。②設問の内容も表現に関する考察が含まれており、古文の中では一番得点率が低い（35.09%）設問でした。

2027年度パワーマックスでも本試験の特徴を踏まえ、第4回第4問の問4では、問題文とは別の作品である引用文を用いた表現に関する考察問題を設けています。その他全体としても2026年度試験の最新傾向を踏まえながら、問題文では単独の文章問題から複数文章の問題を幅広く収録し、設問では表現の考察問題や4~5択の選択肢など様々な形式に対応する力をつけます。

## 2027年用パワーマックス 古文 第4回第4問 問4

②表現に関する  
考察問題にも対応

①本文と引用文を参照

問4

次を示すのは、授業で本文を読んだ後の、話し合いの様子である。これを読み、後の(i)~(iii)の問いに答えよ。

教師——本文の③④⑤段落の内容をより深く理解するために、次の文章も読んでみましょう。これは『伊勢物語』の1節です。

むかし、男女、いとかしこく思ひかはして、こと心なかりけり。さるを、いかなることかありけむ、いささかなることにつけて、世の中を憂しと思ひて、いでていなむと思ひて、かかる歌をなむよみて、物に書きつけける。

C いでていなむ心かるといひやせむ世のありさまを人は知らねばとよみ置きて、いでていにけり。

教師——室町時代末期成立の『師門物語』に対して、『伊勢物語』は平安時代前期の成立です。この『伊勢物語』の文章は、ある夫婦の話ですが、女は男のもとを去ってしまいました。BとCの和歌を読み比べて、何か気づいたことはありませんか。

生徒A——Cの和歌はBの和歌と表現がよく似ています。偶然の一致とは思えません。

生徒B——確かにそうですね。二つの物語の成立年代を比較すると、Bの和歌はCの和歌を下敷きにして詠まれたものだとわかります。

生徒C——でも違うところもあります。たとえば、Cの和歌の「世のありさま」を、Bの和歌では「つもの嘆き」と言い換えています。

生徒A——それぞれの和歌が詠まれた経緯が違うからかもしれません。でも、Cの和歌の「世のありさま」ってどういうことでしょうか？

## 2026年度共通テスト 本試験 第4問 問5

②表現に関する  
考察問題の出題

①本文と引用文を参照

問5

次を示すのは、本文の場面に居合わせた右大臣が、後日、帝にその折のことを報告している際の会話である。これを読んで、この会話と本文に関する説明として最も適当なものを、後の①~⑤のうちから一つ選べ。解答番号は29。

(注) 「右大臣」尚侍など琴弾きはべりしほどなむ、興はべりしや。いとありがたかりけることぞや」  
 (帝) 「その琴は、いづれぞ」  
 (右大臣) 尚侍の、昔より弾きはべりける龍角となむ承りし。それをなむ、かの児になむ取らせはべりにける」  
 (帝) 「いとみじきもの得たりける女子にもあるかな」  
 (注) 尚侍——本文の「尚侍のおとど」仲忠の母のこと。

① この会話で「いとありがたかりけることぞや」と詠嘆の助詞「や」を用いている点からは、尚侍のおとどが琴を弾くのは稀なことだと分かるが、本文でも尚侍のおとどは琴の一族以外の人の前で演奏することを最初は拒んでいた。

② この会話での「その琴は、いづれぞ」との帝の問いからは、仲忠一族の琴の伝授が他の人にとっても関心の的であったことが分かるが、本文でも仲忠の後継者が長年不在であったことに対する世間の嘆きの声も記されていた。

③ この会話での「尚侍の、昔より弾きはべりける龍角」との右大臣の説明からは、龍角は尚侍のおとどが幼い仲忠とともに弾いた思い出の楽器であることが分かるが、本文でも仲忠は龍角の演奏を聞いて幼少時を思い出していた。

④ この会話で「それをなむ、かの児になむ」と強意の助詞「なむ」を繰り返す点からは、龍角を誕生直後のいぬに与えるのは特別なことだと分かるが、本文でも仲忠はいぬに授けられた龍角を早速いぬを抱きながら演奏していた。

⑤ この会話での「いとみじきもの得たりける女子にもあるかな」との帝の発言からは、尚侍のおとどが並外れた琴の奏法を持ち合わせていることが分かるが、本文でも尚侍のおとどの演奏が仲忠の演奏以上に賞賛されていた。

# 2027年用パワーマックス 漢文 おすすめ問題

本試験の第5問では、第4問（古文）と同じく、4択と5択の選択肢で出題され、特に問3で見られた5択の設問は漢文の知識と読解の双方が問われており、国語の中でも一番得点率が低い17.48%でした。

2027年度パワーマックスでも本試験の特徴を踏まえ、第4回第5問のように、問4は5択・問5は4択といった、選択肢の数など設問にバリエーションをもたせています。その他全体としても2026年度試験の最新傾向を踏まえながら、問題文では単独文章の問題や漢詩を含む文章など幅広く収録し、設問では漢文の知識と読解といった双方の面から対応する力をつけます。

## 2027年用パワーマックス 漢文 第4回 第5問 問4・問5

本試験と同じく、4択・5択の選択肢を出題

**問5** 傍線部D「余因窃歎」とあるが、なぜ筆者は嘆くのか。その理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は **36**。

① 自分の下宿の主人が、召使いにも笑われるほどに物を買ひ込む、けちで欲ばりだったから。  
 ② 召使いが、緊急時を想定して備蓄するという、主人の本当の意図を見抜けず馬鹿にしたから。  
 ③ 官職についている人々が、下宿の召使いのように将来を予見する力をもっていないから。  
 ④ 官職についている人で、いつ職を辞してもよい覚悟でことにあたる人があまりに少ないから。

**問4** 傍線部C「若逆旅人将行者」と同じ内容を表している本文中の語句は、波線部①～④のうちどれか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **35**。

① 謀攘之  
 ② 掛草鞋一双於方丈前  
 ③ 立朝  
 ④ 悉無所畏  
 ⑤ 今日不知明日事

## 2026年度共通テスト 本試験 第5問 問3・問4

4択だけではなく、5択の選択肢も出題

**問4** 傍線部C「不亦已駭乎」の解釈として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は **34**。

① やはり愚かなことであろうか。  
 ② どうして愚かだといえようか。  
 ③ なんと愚かなことであろうか。  
 ④ かえって愚かだといえようか。

**問3** 傍線部B「是雖狭見使然」の返り点の付け方と書き下し文との組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **33**。

① 是雖狭見使然 是れ狭く然らしめらると雖も  
 ② 是雖狭見使然 是れ狭見の然らしむと雖も  
 ③ 是雖狭見使然 是れ狭しと雖も見使然は  
 ④ 是雖狭見使然 是れ狭しと雖も然らしむるは  
 ⑤ 是雖狭見使然 是れ狭見と雖も然らしむるは